非核の政府を求める大阪の会ニュース

第223号　2024年9月1日

発行　非核の政府を求める大阪の会　豊島 達哉　梅田 章二
〒542-0012 大阪市中央区谷町 7-3-4（新谷町第3ビル 210 号）
TEL.06(6765)3032　FAX.06(6765)3033
URL・https://hikaku-osaka.jp/
E-mail・hikaku-osaka1986@kind.ocn.ne.jp
hikakuosaka@hotmail.com

若い世代への被爆の実相をどう伝えるか

その重要性とむずかしさ

大阪原水協は、今年の原水爆禁止世界大会プレ企画として「高校生・若者企画『ひばくしゃの話を聞く会』」を7月28日開催しました。4回目となる取組みで青年への被爆の実相を伝えていくことの大切さとむずかしさが交流されました。参加は中学生・高校生を含めて15名でした。

正面右は山下しのぶさん、左は今井セイ子さん（7.28）

寝屋川の被爆者、山下しのぶさん（広島、2歳で被爆）と今井セイ子さん（長崎、生後4時間後被爆）のお二人です。山下さんは家の前で遊んでいた時被爆、玄関まで爆風で飛ばされました。今井さんは、産声を上げた約4時間後、被爆。天井からすすが落ちてきて埋もれました。お母さんが救い上げたので一命をとりとめました。

参加者からの質問で「聞く会」は、被爆の実相を若い世代に伝えていくことのむずかしさと重要さが交流のテーマになりました。山下さんのお母さんが戦後6年で亡くなられました。遺体は「ABCCに持っていかれ検査されました」「母のおなかに8か月の胎児もいました」。活動家でも「ABCC（原爆傷害調査委員会）」の言葉は難解です。いわゆる専門用語だけではなく、「長崎の平和公園はかつては軍需工場の残骸がありました」との今井さんの話で、「軍需工場」という言葉が参加した若者にはわからない、との話。若者に付き添っていただいた40代のお母さんからの意見です。「自分はかろうじてわかりますが、息子はわからないようです」と。

被爆者のお二人からは、「今、小学校などで語り部などをしていますが、子どもたちにわかりやすいように話することのむずかしさを感じます。」「自分たちは幼少期の体験などで、生き残った親や兄弟、親戚の大人たちから聞いたことです。それをリアルに話すことのむずかしさがあります。」また、被爆者のみなさんを取り巻く社会環境からのむずかしさがあります。お二人は世界大会やNPTニューヨーク行動に参加されていますが、ご主人が亡くなられてから、70代になってからです。

寝屋川市原爆被害者の会に入会を勧めた被爆者の方が「息子が退職してから」と答えられたり、自分が結婚の際、周りから「子どもができるのか？」と不安がられたり、「五体満足に生まれてきた時の家族の安堵感」など、自分を知っていてくれる家族でさえ心理的苦しみはあったそうです。一方、「医療費の免除（苦しい運動の成果）などにやっかみの声を聴いたりして、心穏やかではありません」と。

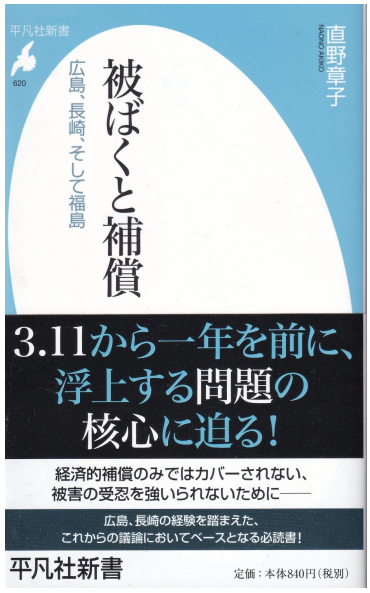
学校教育においても被爆の実相の“悲惨さ”が理由で「原爆と人間」（パネル）などの写真を見せにくくなっています。平和教育の大切さとともに、地域での平和のための戦争展などのとりくみが重要性をましています。

【非核五項目】
①全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
②国是とされる非核三原則を厳守する
③日本措置核戦場化へのすべを阻止する。
④国家の補償による被爆者援護法制定にすする。
⑤原水爆禁止世界大会のこれまで合意にもとづいて国際連帯を強化する

『被ばくと補償―広島、長崎、そして福島』（直野章子著）

「3・11の東京電力福島第一原発事故発生以来、長期にわたる影響が懸念される放射線被害の実態。受忍を強いられてきた被爆者の歴史を繰り返さないために、その現実を原発被害者が直面する状況へと接続し、原子力を受け入れてきた国家による補償の在り方を考える。」と扉に本書のねらいが記されています。

4章構成で第一章は「原発事故被害に対する補償制度」、第二章は「被爆者に対する援護」、第三章は『放射線起因性』をめぐる政治」、第四章は「被ばくと『受忍』」、271頁の好著です。その印象をつよくするのは、11頁にも及ぶ「はじめに」です。「広島、長崎の経験を踏まえた、これからの議論においてベースとなる必読書」と帯文に紹介されています。



第一章
1 原発事故の被害
2 原子力損害の範囲
3 賠償の中間指針
4 指針の特徴と残された課題
5 健康調査と健康管理

第二章
1 現行の被爆者援護制度
2 「被爆者」の誕生
3 医療法改正と特別措置法制定
4 被害の発掘と責任の追及

第三章
1 「三号被爆者」裁判
2 「黒い雨」指定地域
3 「被爆体験者」とPTSD
4 原爆症認定と裁判
5 ABCC／放影研と被爆者調査

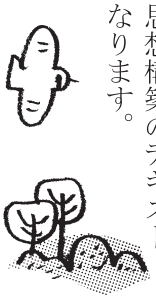
第四章
1 放射線防護と受忍の思想
2 被爆者に対する受忍論
3 戦争被害受忍論の系譜
4 原発事故に置け「受忍」
5 戦後補償と原発事故被害の補償

おわりに

▲直野章子氏（当会の総会記念講演２月１０日）

―被爆者の苦しみを繰り返さないために

第一章は、「原発事故被害に対する補償制度」の問題にふれ、「被害拡大の防止ではなく、被害を否定するために調査結果が利用されないよう、被爆者調査の過去」にふれつつ問題点を明らかにします。そのうえで、第二章では、原爆被害者に対する援護政策の内容と立法過程を改めて学び直すことができます。政府の原爆被害の矮小化、放射線に起因する被害を極力認めようとしない姿勢が浮き彫りになります。第三章では、被爆者調査が米日の核戦略と密接に関連した政治的思惑からの原爆症認定行政を批判します。最後に第四章は、政府の「受忍」論を総合的に分析し、被爆者（被爆運動）からの遺産を受け継いで原発被害者を守っていく平和の思想構築のテキストになります。



シリーズ大阪における国民平和大行進

1981年の平和行進…核持ち込みの怒りのなかの平和行進

81年は、核戦争の危険が高まり、日本はこれに巻き込まれる状況になっていました。米国でレーガン政権が誕生し、ソ連の脅威を強調して強いアメリカの回復を掲げました。具体的には包括的戦略核兵器近代化計画など対ソ核軍拡優位を追求。一方、日本政府は前年11月「原爆投下は国際法違反ではない」との統一見解を発表し、鈴木・レーガン共同声明で日米関係を初めて「同盟」関係と明記。日本の防衛対象は「シーレーン1000カイリ」と表明しました。核兵器持ち込みに関するライシャワー発言が報道され、核兵器持ち込み反対、非核三原則厳守の世論と運動が急速に高まっていく中での平和行進となりました。

1981年原水爆禁止国民平和大行進が5月8日、東京夢の島第五福竜丸前を出発しました。81年平和行進は、核戦争阻止、核兵器完全禁止、軍拡反対、被爆者援護法制定、原水爆禁止世界大会の成功と第二回国連軍縮特別総会をめざして8月の広島・長崎にむけて北海道から沖縄を結ぶ全国8000キロを歩き続けました。通し行進者には日本山妙法寺から6人、海外代表から青年4人（アメリカン・インディアン行進

出発集会で挨拶される通し行進者として挨拶される日本山妙法寺の増永国臣上人（府立病院前7.6）

者）が参加しました。府下の行進は以下の通りです。

◆7月2日　国鉄東海道線「山崎駅前」すぐ前の神社で京都から引き継ぎ16団体30名で出迎えます。

［Aコース］

◆7月4日　河内長野―松原　延べ500人

◆7月5日　八尾―大手前コース　延べ650人八尾―東大阪300人　東大阪―東成200人　東成―大手前　150人

◆7月6日　住吉―守口　延べ200人

◆7月7日　守口―枚方　64団体延べ600人

守口、門真、寝屋川、枚方で被団協の代表からあいさつ、寝屋川から枚方の行進に府被団協の代表が参加、また香里団地で小学生が飛び込みで行進に参加、茨木では小学生が千羽鶴を被爆者に贈呈、吹田では小学生が「ノーモアヒロシマ」の横断幕をもって参加

［Bコース］

◆7月4日　泉佐野―和泉　延べ350人

◆7月5日　和泉―堺　延べ320人

［Cコース］

◆7月6日　西淀川―守口　31団体延べ120人

［Dコース］　大正―守口　延べ120人

▲被爆婦人も参加・大阪市内椎寺町付近(7.6)

先日しんぶん赤旗でも紹介されたように、依然として12、121発の核兵器があり、人類を脅かし続けています。2024年広島平和式典では、松井広島市長は参加者に、「希望を胸に心を一つにして行動を起こし・・核抑止力に依存する為政者に政策転換を促す」ことを呼びかけました。そして日本政府には、核兵器禁止条約締結国会議にオブザーバー参加し、一刻も早く締結国になることを求めました。また国連総長あいさつでも「核兵器の脅威をなくす唯一の道は核兵器の完全な廃絶である」と断定しました。核兵器のない世界を作るうえで、唯一の戦争被爆国の日本が核兵器禁止条約に参加することは、もっとも強いメッセージとなります。非核の政府を求める会の役割はいよいよ重要です。会に参加する組合として、諸課題にしっかりとりくめるよう提案したいと思います。

数年前に意見広告に写真を載せていただいた孫（小2）が今年、娘と一緒に世界大会に参加しました。被爆者の方の話など、フィールドワークの内容はよく分からなかったようですが、平和祈念資料館の展示を見て、「酷い」「怖い」と言っていたそうです。次の世代にも運動を広くつなげられたらと思います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

平和のバトンを次世代に

当会から広島世界大会に参加した青年の成海鐵雄さんの感想文を紹介します。（抜粋）

前回、広島に行った時はまだ核兵器禁止条約が発効していなかった頃なので、時の流れの速さと反核運動が少しずつ前進していることを実感します。しかしロシアとイスラエルの核保有国がそれぞれ実質的な戦争状態にあり、悪化している側面も否定できません。

初日は開会総会に参加しました。開会総会で私が特に印象に残ったのはインドネシア大使の方の「核軍縮はインドネシアの最重要課題」だとして、禁止条約への参加を訴えかける発言でした。東南アジア非核地帯条約やASEAN等で地域的な活動を推進してきた歴史が現れていると感じ、同じ目標に向かって努力する仲間が(インドネシアに限らずですが)世界中にいることを実感しました。

2日目は非核の政府を求める会の原爆死没者慰霊碑献花に参加しました、分科会では「青年の広場」に参加しました、流れは学習会、被爆体験、昼休憩、パネルディスカッションです。被爆者の方の話で、昨年に被爆者手帳をもらった(被爆者と認められた)という話でした。家族に「お母さんは今日から被爆者になりました」と話すと息子さんが「じゃあ僕たちは被爆二世だけないね」と返されたそうです、前向きに受け止めているというロぶりでしたが原爆投下から78年たってなお、被爆者やその子供の世代にそんな覚悟を背負わせるのだな、と核兵器のなんとむごく、酷い物かという印象を強めました。これだけの青年が集まってくれたということそのものが希望であるということを感じました、そのうち一人として参加でき、いろいろな青年と交流できてよかったと思います。被爆の実相のみならず、あらゆる運動において次世代へと受け継ぎ、託していくことが喫緊の課題となっている昨今、とても重要な取り組みだし私自身も頑張らないといけ

ね」「そのつもりで生きていかないといい

新常任世話人紹介

大阪府立高等学校教職員組合　川口　整

府高教からお世話になっています斉藤がしばらく研修で離れるため、代理で出席させていただきます府高教執行委員の川口です。よろしくお願いします。

ないと思いました。高校生たちの発言も希望が感じられるものでした、ここ数年の高校生や大学生の世代(概ね２０００年以降生まれ)は個人差もあると思いますが、社会運動に親和的な人が多いように思います。核廃絶にしても、気候変動にしても、人権にしても関心が強く、未来に対する責任感が私を含む上の世代より強いように思います、この総会でも高校生による「私たちは平和を築く主役である」という趣旨の発言がありました。我々も負けないように頑張らなければならないといけないと思いました。

民青府委員会(成海)

地元の戦災語り継ぐ 原爆投下予行演習

今年も7月26日東住吉区田辺で「模擬原爆追悼式」行われました。会場となった恩楽寺は百名以上の小・中学生、地域からの参加でいっぱいでした。

「戦争は怖い、止めてほしい」と模擬原爆の体験を聞き、ウクライナ、ガザのテレビ報道で身近に戦争を感じ取った子ども達の発言で胸がつまります。東住吉平和委員会も岡崎久美子会長が挨拶を行いました。

東住吉平和委員会は２０１９年の創立時から「地域に平和委員会があって良かった」をコンセプトに運動をすすめ、模擬原爆追悼式実行委員会の大久保敏さんを招いての学習会を開催し積極的に模擬原爆の実態を知り、知らす運動をすすめてきました。私たちは東住吉区役所に「模擬原爆の資料を展示」し、「模擬原爆パンフを作成し区役所の窓口に置く」の申し入れを行ってきました。展示については「模擬原爆追悼式実行委員会」のみなさんの努力で、２０２２年夏から区役所二階に展示されるようになりました。また「パンフ」作成については２０２２年に「非核の政府を求める会」作成の「非核・平和のデータブック」等４冊を区企画課長に「パンフ作成の資料にしてほしい」贈呈しました。まだ実現していませんが、引き続き運動を強めていきたいと思います。

昨今、自民党の一部、維新などが「核の共有」を声高に言い始めています。

私たちの闘いは正念場を迎えています、皆さんとともに頑張りたいと思います。それが田辺模擬原爆犠牲者へ追悼でもあると考えています。

東住吉平和委員会・黒田安彦事務局長

地域から非核・平和の声を届けよう

①

②

③

①天王寺平和のための戦争展（７月27日大阪市立社会福祉センター）［実行委員会］※１３回に及ぶ継続性

②松原平和のための戦争展（７月29日～８月１日松原市役所）［松原新婦人］

③堺平和のための戦争展（８月３～４日サンスクエア堺）［実行委員会］※2005 年から毎年開催され、近年は自治体、マスコミの後援をうけ、若い世代への平和の継承をすすめています。当会創設期の会員の加藤義明氏のキリ絵展、自治会掲示板にポスター掲示など市民権を得たとりくみになっています。

④

④からほりピースフェスタ（８月６日妙徳寺他）［実行委員会］※宗平協の「平和の鐘つき」など多彩なとりくみ、商店街の協力など第１４回に及ぶ継続性が特徴。

⑤

⑤藤井寺平和のための戦争展（８月１０日藤井寺市民会館）［実行委員会］※１２回に及ぶ継続性、当会作成の模擬原爆模型を展示、パンプキン爆弾の実相を展示。隣接の会場では市主催の平和展も開催、「核禁条約」署名台も設置。